

## 公益社団法人 北海道獣医師会 新会館竣工

—建設までの10年間の道のり—

廣田和久<sup>†</sup> (公社)北海道獣医師会専務理事)

昭和53年(1978年)9月に旧会館が落成以来、45年を経過してここに新たな会館が完成した。

会館建替えの発端は、平成25年度第3回理事会において、理事より獣医師会館の老朽化に伴う新築について提案があり、さらにその後の中間監査において、会館の老朽化に係る監事の指摘があったことによる。同年の理事会において、北獣会館建設計画検討特別委員会の設置が承認され、以後、12回にわたる委員会が開催された。平成27年度の理事会では、具体的な資金調達方法を1年かけて検討することを付帯して、特別委員会から答申されたとおりに会館建設が決定された。しかし、平成28年度の定時代議員会において建設計画を上程するも、具体的な資金調達計画と合わせて決定すべきとの意見があり、その結果、採択は見送りとなり、以後の進展はなかった。ところが、平成30年に胆振東部地震が発生し、その後に行われた耐震診断において不適合建築物と判定されたことから建替えの議論が再び沸き上がった。先の代議員会で指摘された資金計画の具体案が最大のネックであった。当初、期待していた関係団体からの大型寄付が望めない中、一縷の望みをかけた食鳥検査事業も頓挫、本来なら建設基金を確保すべきところ、対応されていなかったことなどが重なり、完全に資金計画が成り立たない状況に陥った。その時は会館建設を白紙に戻し、貸しビルへの入居話も出たが、日本一の会員数を誇る北海道獣医師会の活動の拠点として、自前の会館を持ちたいとの執行部の強い意向に、理事会、代議員会の同意を得るところとなった。そのような経過の最中に、大型入居団体として札幌夜間動物病院の話が舞い込んできて、会館建替え計画が大きく前進した。期待していた一部入居団体の辞退という厳しい事案も発生したが、令和4年度定時代議員会において、会館建替えのための特別会費としてひとり1,000円ずつ賦課することが承認されたことに加え、会員の建替えに係る特別寄付金の支援、銀行

からの借入れ及び札幌夜間動物病院の賃貸収入によりようやく建設の目途が立った。

令和3年度に入り、建設業者の決定、駐車場の土地購入などを進め、同じ場所に建設をすることから、令和4年11月に近くの仮事務所に移転したのち建設が着工され、約1年後の令和5年10月31日、鉄骨2階建ての会館が竣工した(写真)。同年12月7日には、本会理事会の終了後、理事及び関係団体の出席を得て、新会館会議室において、ささやかながら落成式を行った。1階に入居した札幌夜間動物病院も新会館において診療を再開し、文字通り夜7時から翌朝6時まで、年中無休の体制で救急医療に当たっている。

新会館の計画から本日まで10年間もの長い期間を要し、前々会長、前会長及び現会長の3代にもわたり執行部が関わる非常に大きな事業になった。この間の活動の中心が会館建替えに集中したため、会員あるいは社会に対する新たな活動の実施が停滞してしまったとの反省がある。

昨今、他の地方獣医師会と同様に北海道獣医師会においても、活動の中心となる会員数や本会の事業である狂犬病予防注射頭数が減少している。予防注射啓発事業による接種率の改善はもとより、会員数維持のため会員が会員でいて良かったと思える新たな活動や会員外の獣医師が会員になりたいと思える魅力的な活動を、新会館を十二分に生かして活性化したいと考えている。その一つ目としては、会員にとっての有益な情報提供である。本会は月に1回会誌を発行し、その中の学術論文はホームページでも掲載しているが、SNSの普及拡大に伴う新たな発信方法を検討している。検討にあたって新たに本年度情報発信検討委員会を立ち上げ、中堅の会員による情報発信ツールの選定、発信内容を検討中である。二つ目は、人獣共通感染症の予防や薬剤耐性菌対策を検討課題とするワンヘルス推進特別委員会の設置を理事会で決定した。公衆衛生分野をはじめとして各分野より委員を選定し、医師会と連携したセミナーの開催、ワンヘルスに関する知識の普及・啓発を進めていくこととした。三

<sup>†</sup> 連絡責任者：廣田和久 (公社)北海道獣医師会)

〒063-0803 札幌市西区二十四軒4条5丁目9-3

☎ 011-642-4826 FAX 011-642-4642

E-mail : hokuju00@poplar.ocn.or.jp

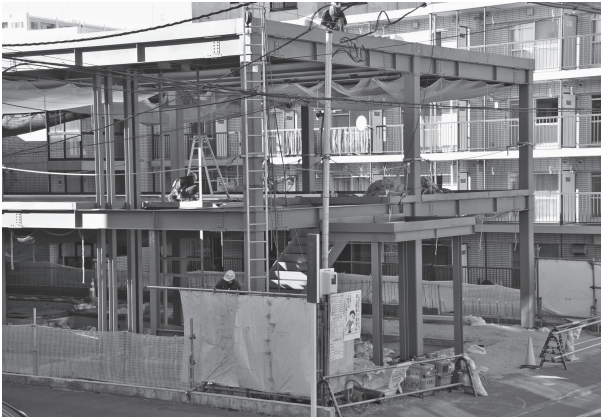


写真1 建設中の会館（令和5年5月）

つ目として、会員数減少傾向の中、このまま推移すると本会の活動にも大きな影響を与えるものと予想している。本会運営のための会員数及び主要な事業である狂犬病予防接種事業が減少している中、将来的に現在と同様の事業を継続することが困難になる可能性が想定される。そのような現状と将来の見通しを踏まえ、獣医師が会員である意義を十分に感じ、社会的にも貢献するようさまざまな事業や活動を常に模索し実施していくための将来検討特別委員会を理事会の承認を得て設置するこ



写真2 新会館竣工（令和5年10月31日）

ととした。今後、各分野から若手や中堅及び女性会員に委員を委嘱して、特に、若手会員が期待する活動内容、職場復帰等を支援するリカレント教育の実施及び財政基盤を安定化させる方策を当面の課題として検討を進める予定である。

会館が建替えられたことを契機として、北海道獣医師会館を拠点とした、会員や社会に貢献する北海道獣医師会の活動を推進するとともに、先人たちが築き上げた歴史をさらに発展することを誓うものである。